

3年目の挑戦～風の家の新時代～



社会福祉法人 薫風会
特別養護老人ホーム 風の家

【2年目の取り組み】

- ・委員会再編成(副主任の委員会参加)
- ・指導者育成研修会参加
- ・施設内勉強会の開催(技術習得)
- ・福祉用具の活用(対象者を絞り慣れる)

【結果】

- ・ブロック内における取組の活性化
- ・勉強会参加による意識改革・技術向上
- ・床走行式リフトが日常的なケアに浸透

【課題】

- ・コロナにより勉強会が実施できず、意識・意欲低下
- ・福祉用具使用することでの事故発生
- ・正しい使い方や知識・技術不足



【導入した福祉用具】
グローブ(全職員)・床走行式リフト
スタンディングリフト

【1年目の取り組み】

- ・委員会の立ち上げ
- ・ノーリフティングケアの理念を学ぶ
- ・各ブロックにリンクスタッフを配置
- ・基本動作の習得(オンライン実技指導)

【結果】

- ・ノーリフティングケアの理解の浸透
- ・施設全体で取り組む体制づくり

【課題】

- ・部署ごとに温度差が出た
- ・大規模施設であるため大人数のスタッフに対し教育が不十分だった
- ・リンクスタッフへの負担が大きかった
- ・福祉用具活用や技術の不足
- ・福祉用具の導入



【導入した福祉用具】
スライディングボード・スライディング
シート・入浴用リフト

3年目に重点的に取り組んできたこと

指導者の育成

介護技術の更なる向上



1. 床走行式リフトの実技試験

福祉用具の中で一番普及しているリフトから実技試験を実施。各ブロックの副主任が指導者となり、一般職員へと実践する。



副主任全員 合格○

指導者の育成にあたっての課題が出現

- ・指導のポイントが均一でない
- ・同一視点でのチェックができる体制が必要



2. 風の家独自の指導者用マニュアルの作成

日付	部署	危ないと感じたこと (自身の体験・他者の使用を見てどちら)	分類 利用者・スタッフ・環境
9月16日	2B	利用者様をベッドヘリフトにて移乗行う際、下肢に力が入らず、ベッドに足が当たりそうな場面あり。床とタイヤの相性も悪く、力がない場合だと、勢いや力みすぎてしまう場合があるので。	利用者の体重・スタッフの力・居室の床の素材
9月23日	6B	トイレットスリングで下降中入居者様が頭を揺られ右腕がスリングから抜けそうになった。	利用者
10月14日	6B	トイレットスリングの使用に慣れていないスタッフがスリングを装着した際スリングの脚部が両側ともねじれていた。テンションがかかる直前まで気づけなかった。	利用者

福祉用具使用時のヒヤリハット集を作成。

抽出したヒヤリハットを指導マニュアルに組み込む。

	項目	ポイント・注意点	実際に起きた事故
スリングの装着	1	側臥位にしてスリングをかぶせ、背中心と尾骨に合わせる	中腰にならないようにベッドの高さを調節する。背中心を合わせないと、吊り上げた時にご利用者の体が傾く。傾くと一方に圧がかかってしまう。その状態で揺れが生じるとさらに圧がかかる。
	2	肩甲骨と骨盤に敷き込む	ベッドに対して斜めに立ち、手を伸ばす方向に下肢を広げる。⇒手先だけで行わず支持基底面を広げ、体の重心を下ろすことなど体の使い方を意識して作業する。
	3	仰臥位にする	胸郭を開きながら仰向けにする。

事故の事例を入れることで、よりイメージや予測をしやすくなるように工夫。

教科書の内容に+αで独自に、より具体的になるように。

一人でも移乗介助が出来るように！



【ノーリフティングケア導入前】

- ・10年前に入社してきた女性社員(当時69歳)。
- ・入社してすぐに、移乗時に腰を痛め休職。
- ・復帰するも移乗介助はそれ以降出来ず、身体介助から遠ざかっていた。

【ノーリフティングケア導入後】

- ・以前は他スタッフへ気を遣うこともあった
- ・最初は使い方に苦労したが、すぐに慣れて介助が楽になった
- ・リフトを使用するにあたって、考えて試行錯誤し、工夫をするようになった
- ・ご利用者様とも関わる時間が増えた

79歳になった今でも、元気に働かれています！

現場職員からの声

入浴・移乗用リフト
使用で腰痛が軽減した

一人で安全に移乗
介助が出来る
接触事故減少

使い慣れることで
ご利用者様にも
笑顔が

腰痛重度者が軽減



3年間の取り組みを経て

取り組み始めた当初は、大規模施設でノーリフティングケアの取り組みができるのかと不安があった。

150床の大規模施設であり、ノーリフティングケアを施設内に広げていくために様々な課題にぶつかり、取り組んできた。その甲斐があって、ノーリフティングケアの目的・必要性の理解は浸透したように思う。大規模施設だからこそ、組織体制を作り上げることに時間を要し、3年かかった。この3年間は土台作りであったように思う。これからが真のスタート！

今後の課題

- ・年齢問わず働ける環境づくりの継続。
- ・施設職員全体のノーリフティングケア技術の向上。
- ・福祉用具の活用(ボード・シート)。
- ・選定後もPDCAサイクルを途切れさせない。
- ・地域連絡協議会で施設間の情報共有。

